

## 令和元年度 第4回広島市感染症対策協議会

令和元年7月16日

- 【日時】 令和元年7月16日(火) 19:00~20:00  
【場所】 広島市役所14階第7会議室  
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、  
新甲さなえ、堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、長岡 義晴、  
松原 啓太、南 心司

### 1 感染症に関する最近の情報《公開》

#### (1) 麻しん患者の発生状況について (資料1 P1~29)

5月30日、本市において麻しん患者が1名発生して以降、当該患者を含め、これまでに県内で18名の患者(広島市6名、福山市8名、東広島市3名、大竹市1名)が確認された。

これらの患者から検出されたウイルスは、遺伝子の塩基配列が一致しており、同一の感染源であると推定されるが、同じ職場や家族など麻しん患者と接触があった者以外の患者については、感染経路は不明であった。

本市においては、患者の行動調査や接触があったと思われる者への健康観察を行うとともに、患者が感染可能期間に利用し、不特定多数の者と接触した可能性がある施設や交通機関について公表し、市民等に注意喚起を行っている。また、医療機関や県と連携し、疑い患者の検査や緊急ワクチン接種等、まん延防止対策を実施している。

本市における麻しん患者の発生は平成26年以来5年ぶりであったが、県内では本年、上記患者を含め26名の報告があり、過去10年間で最も多くなった。全国においても、7月3日現在644人の報告があり、昨年1年間の報告数282人の2倍以上となっている。

(委員意見)

- ・ 引き続き、終息に向けてまん延防止に努めてほしい。

#### (2) 平成30年度の広島市の予防接種実施状況について (資料1 P30~31)

平成30年度の本市における予防接種の実施状況をとりまとめた。

昨年度と比較して、ほとんどの予防接種で接種率が上昇した。麻しん・風しんワクチンの接種率は、1期が昨年度から微増の96.4%であったが、2期は94.7%と国の指針で示されている95%には届かなかったものの、これまでで最も高い接種率となった。

一方、高齢者肺炎球菌ワクチンについては、平成26年度の定期接種化以降、最も低い接種率37.5%となった。月別の接種状況を確認すると、例年、接種期限直前の3月に接種者数が増加するところ、本年はこの3月の接種が極端に減少していた。これは、平成31年2月、国が接種対象者の経過措置を5年間延長すると決定したため、昨年度の対象者が5年後に接種しようとして判断したためと考えられる。

本市としては、今後も様々な機会を捉えて、引き続き接種勧奨に努めていきたい。

(委員意見)

- ・ 引き続き、あらゆる機会を捉えて接種勧奨に努めてほしい。

### (3) 手足口病の流行について (資料1 P32~45)

国の感染症発生動向調査において、手足口病が、第23週(令和元年6月3日~6月9日)時点において、小児科定点からの患者の届出数が、過去20年間で最も多くなった。この状況を受けて国は、令和元年6月20日付けで、平成25年8月6日事務連絡にて周知した「手足口病に関するQ&A」をあらためて自治体等へ通知し、手足口病の流行に注意するとともに、手洗いの励行等の感染予防策についての普及啓発の協力を依頼した。

広島県においても、第23週(6月3日~6月9日)の定点当たり報告患者数が、北部保健所管内(三次市、庄原市)で警報開始基準値(定点当たり5)を上回ったため、6月13日に県内全域に「手足口病警報」を発令し注意を呼び掛けている。

本市においても、第24週(6月10日~6月16日)時点で警報開始基準値を上回り、第27週(6月24日~6月30日)では定点当たり12.13人で、全国の報告数(定点当たり9.79人)を大きく上回っている。今後の動向に注意が必要な状況となっている。

(委員意見)

- ・ 今後の動向に注意し、感染拡大防止に向けて努めてほしい。

## 2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

### 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	6月分	7月分
		届出日 6/3～6/30 現在	届出日 7/1～7/15 現在
2類	結核	15人 (結核12人、潜在性結核3人)	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1人 (6/29)	
4類	レジオネラ症	5人 (6/11、6/18、6/21、6/22、6/28)	3人 (7/2、7/3、7/8)
5類	アメーバ赤痢	2人 (6/20、6/25)	
	ウイルス性肝炎	1人 (6/5)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人 (6/5)	
	後天性免疫不全症候群	3人 (6/10、6/11、6/24)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人 (6/7)	
	梅毒	11人 (6/3 (2名)、6/7、6/10、6/13、6/14、6/17 (2名)、6/19、6/20、6/28)	1人 (7/1)
	播種性クリプトコックス症		1人 (7/3)
	百日咳	2人 (6/11、6/20)	1人 (7/2)
	麻しん	5人 (6/5、6/8、6/11、6/17、6/26)	
	水痘	1人 (6/6)	

( ) は届出日

### 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和元年9月17日(火) 14階第7会議室

#### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：6月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

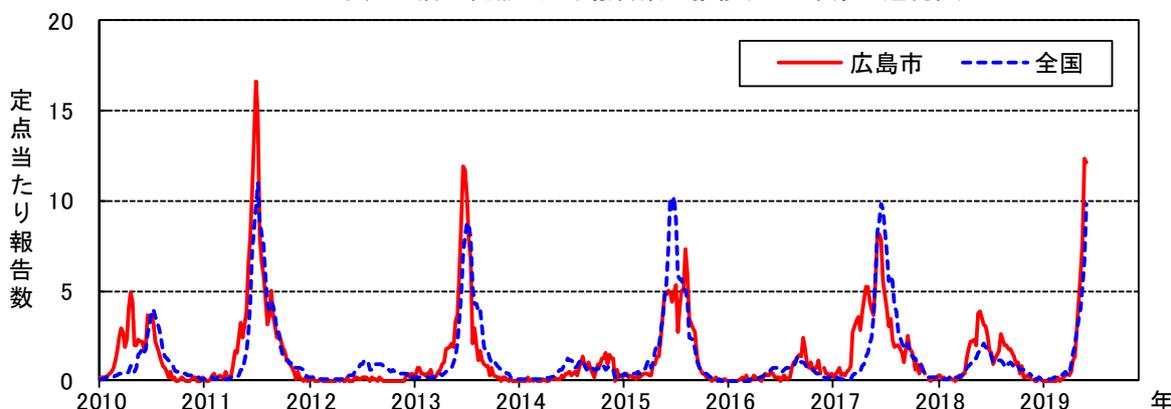
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は1,891人で、前月比1.56と増加した。

手足口病、ヘルパンギーナは大きく増加、RSウイルス感染症は増加、咽頭結膜熱、伝染性紅斑、突発性発しんはやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、流行性耳下腺炎はほぼ横ばい、インフルエンザは大きく減少した。

(2) 特記事項

- 手足口病は、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症である。数年おきに比較的大きな流行がみられており、今年是全国的に報告数が増加している。広島市では、5月中旬以降増加しており、第27週(7月1日～7月7日)には定点当たり12.1人の報告があり、例年同時期と比べて多くなっている。手足口病の症状が消失した後も2～4週間にわたって便などからウイルスが排泄されるため、保育園や幼稚園などの乳幼児施設においては、手洗いの励行、排泄物の適切な処理、タオルの共用は避けるなどの感染予防対策を徹底することが重要である。なお、広島県は手足口病警報(6月13日付)を発令している。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1件あり、今年の累計報告数は2件となった。例年、気温の高い時期に報告数が多くなっており、手洗いの励行や食品を十分に加熱するなどの感染予防対策を徹底することが重要である。
- 麻しんは、5月29日に届出のあった1例目以降、報告が続いており、7月5日現在、福山市で7件、広島市で6件、東広島市で3件、大竹市で1件報告されている。全国的にも報告数は増加しており、2019年第1～27週の累積報告数は654件と、昨年の年間報告数の279件(2019年3月4日暫定値)を大きく上回っている。麻しんの感染予防には、ワクチン接種が最も有効であり、定期接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)は早めに接種することを推奨する。また、過去に麻しんにかかったことがなく、予防接種歴が明らかでない場合は、予防接種を受けることを推奨する。

手足口病の定点当たり報告数の推移(2019年第27週現在)



(3) 6月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 15件 (患者：12件、潜在性結核：3件)
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：レジオネラ症 5件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 2件 ウイルス性肝炎 1件  
 後天性免疫不全症候群 3件 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件  
 侵襲性肺炎球菌感染症 1件 水痘(入院例に限る。) 1件  
 梅毒 11件 百日咳 2件 麻しん 5件

(4) 今後の流行予測

- 咽頭結膜熱・・・【流行中】
- 手足口病・・・【流行中】
- ヘルパンギーナ・・・【流行中】

## 2 検査情報

6月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
手足口病	コクサッキーウイルス A6 型	5月	1人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A6 型	5月	1人
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	5月	1人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	5月	1人
その他の呼吸器疾患 (咽頭炎)	*1 パレコウイルス 3 型 *1 ライノウイルス	4月	1人
その他の呼吸器疾患 (上気道炎)	*2 パレコウイルス 3 型 *2 ライノウイルス	4月	1人
その他の呼吸器疾患 (気管支炎)	パレコウイルス 3 型	4月	1人
	ライノウイルス	4月	1人
	B 型インフルエンザウイルス	5月	1人
	ライノウイルス	4月	1人
	パラインフルエンザウイルス 3 型	5月	1人
	ライノウイルス	5月	2人
その他の消化器疾患 (腸重積症)	アデノウイルス 1 型	5月	1人
	アデノウイルス 2 型	5月	1人
	レオウイルス	5月	1人
その他の眼疾患 (その他)	アデノウイルス 56 型	5月	1人
その他の疾患 (不明熱)	ヒトコロナウイルス HKU1	4月	1人
	ヒトボカウイルス	4月	1人

\*1, 2 : 複数病原体検出例

19人の患者から12種類のウイルス21株が検出された。検出ウイルスの内訳は、ライノウイルス6株、パレコウイルス3型3株、アデノウイルス56型及びコクサッキーウイルスA6型各2株、アデノウイルス1型、同2型、B型インフルエンザウイルス、パラインフルエンザウイルス3型、ヒトコロナウイルスHKU1、ヒトボカウイルス、ムンプスウイルス及びレオウイルス各1株であった。

5類感染症定点情報  
(令和元年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第26週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		1	0.03		10	流行性耳下腺炎		21	0.92	
2	咽頭結膜熱		74	3.22		11	RSウイルス感染症		34	1.48	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		226	9.83		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		568	24.70		13	流行性角結膜炎		18	2.26	
5	水痘		28	1.22		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		671	29.18		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		39	1.69		16	マイコプラズマ肺炎		1	0.14	
8	突発性発しん		41	1.78		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		143	6.21		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		3	0.43	

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		40	4.44
2	性器ヘルペスウイルス感染症		16	1.78
3	尖圭コンジローマ		16	1.78
4	淋菌感染症		15	1.67
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		16	2.29
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		7	1.00
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和元年6月分)

第23週～第26週(6月3日～6月30日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ペスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	15	90	1,859	10,419	
	10 ジフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	3	
	16 細菌性赤痢	-	-	11	49	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	2	428	993	
	18 腸チフス	-	-	2	18	
	19 パラチフス	-	-	-	10	
四類	20 E型肝炎	-	1	44	257	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	5	41	242	
	23 エキノコックス症	-	-	2	7	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	-	11	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	-	-	
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	-	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	16	43	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 テクングニア熱	-	-	4	7	
	40 つつが虫病	-	-	17	78	
	41 デング熱	-	2	17	149	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	-	24	65	
	46 日本脳炎	-	-	-	-	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	1	2	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	1	
	55 マラリア	-	-	3	21	
	56 野兎病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	1	2	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	5	12	249	845	
	62 レプトスピラ症	-	-	-	4	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	2	5	65	431
		65 ウイルス性肝炎	1	5	28	156
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	3	171	952
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	7	36
		68 急性脳炎	-	13	62	497
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	8
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	22	91
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	4	81	472
		72 後天性免疫不全症候群	3	9	117	583
		73 ジアルジア症	-	-	5	23
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	40	312
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	2	24
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	21	243	2,002
		77 水痘(入院例に限る。)	1	1	52	246
		78 先天性風しん症候群	-	-	1	3
		79 梅毒	11	49	634	3,281
		80 播種性クリプトコックス症	-	1	7	70
		81 破傷風	-	-	14	51
		82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	7	37	
84 百日咳		2	29	1,559	8,115	
85 風しん		-	13	238	1,896	
86 麻しん		5	6	54	644	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	2	17	